絆 きずな 「東日本大震災」支援・被災地訪問

■全日本中学校長会役員が被災地訪問

平成30年７月30日（月）から８月１日（水）にかけ、全日本中学校長会役員による東日本大震災被災３県（岩手、宮城、福島）の訪問がありました。

本県には30日（月）、山本聖志会長、川越豊彦総務部長、花田英樹支援委員長、松澤宏尚事務局長の４名が来県しました。

新花巻駅から大槌町に向かう車中では、本県中学校長会役員との情報交換を行いました。

その後、佐藤進会長から映像や資料（東日本大震災の記録）をもとに、被災当時の状況について説明を行いました。

「おしゃっち」での説明を聞く山本会長

大槌町ではまず、今年の６月にオープンした大槌町文化交流センター「おしゃっち」を訪れました。施設概要の説明や展示されている震災当時の資料見学、復興に向けての映像の視聴を行いました。

次に、大槌町の４つの小学校と１つの中学校が統合して高台に移転、本県で初めて義務教育学校として設立された大槌学園を訪問しました。学校の施設・設備等を見学した後、釜石地区校長会との意見交換会を行いました。

各校から、それぞれの学校の置かれている状況や生徒及び保護者の状況等について資料を作成し、提示いただきました。釜石東中の佐々木賢治校長と大槌学園の松橋文明学園長から、

「経験した教師や生徒の減少により、震災についての風化が危惧される。」

「保護者の経済状況の厳しさ等、家庭問題が生徒の心の不安定さにつながっている。」

「年月が経過しても心のケアの必要な生徒が減少しているわけではない。」

「大人が支援されることに慣れてしまっている状況がある。」等の説明がありました。

地域に根ざした防災教育のなかでの中学生の役割や共助に対する意識、災害が発生したときの校長会としての対応等について協議しました。

意見交換会後の記念撮影

その後、来年のラグビーワールドカップの会場となる釜石鵜住居復興スタジアムに移動、見学をしながら地域の復興の様子について情報交換を行い、全日程を終えました。

助　成　金　交　付

６月４日(月)、盛岡市のホテルルイズにおいて、公益財団法人日本教育公務員弘済会岩手支部の助成金交付式が行われ、今年も県中学校長会に対し団体研究助成として助成金が交付されました。

太田代支部長から助成金を受け取る佐藤会長

日教弘岩手支部からは、教育振興事業（奨学事業、教育研究助成事業、教育文化事業）として、毎年、児童生徒への大会助成、教職員・学校・教育団体の教育実践研究への助成等をいただいています。